

令和3年3月18日

議会議長 中野 博 様

総務建設委員会

委員長 杉 村 清

閉会中における所管事務調査についての報告

函南町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

- 1 開催日時 令和3年2月2日（火）午前9時00分
- 2 委員の出席状況 委員全員出席
- 3 調査事項

(1) 函南町の財政状況について

少子化・超高齢化社会、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等、国全体の社会状況の変化は、町財政にも大きな影響を及ぼしている。町民の高齢化に伴い扶助費は増額するが、生産年齢人口の減少により税収は減少していくと予測される中、更に新型コロナウイルス感染症の感染拡大により経済活動が悪化し、徴収猶予制度や減免の特例により、税収の大幅な減少が見込まれている。

財政調整基金は、平成30年度に幼稚園・小中学校へのエアコン設置、令和元年度に台風第19号の災害復旧事業費の財源として取崩しを行ったことで、基金の残高は10億円を下回り、災害等に対する備えとしては少ない状況である。

今後の財政状況は、歳入が減少する一方で、必要な歳出は増加する傾向が予測され、厳しさは増してくると想定されるため、職員一人ひとりが知恵を絞り、限られた財源の効果的・効率的な執行に努められたい。

(2) 函南町国土強靱化地域計画について

災害への対応力と防災に関する各取組の実効性の向上を図るため、函南町国土強靱化地域計画の策定が求められている。

国の補助金や交付金の要件化に対応する計画となるため、定期的な進行管理や評価を行い、新規事業の追加等がある場合は、適宜見直しや更新を行われたい。

(3) 公共交通の現状と今後の計画について

公共交通に関する取組として令和3年度に運行開始を予定している循環バスについて説明がされた。

交流拠点を結ぶバスの導入に向けた実証運行が検討されており、具体的なルート案が示された。伊豆ゲートウェイ函南や柏谷公園といった、既存のバス路線が無い地域を結ぶルート案が検討されており、バス停の場所や運賃等、今後さらなる協議が進められるとのことであった。

利便性や乗客のニーズに合ったルート選定、運行方法等の協議を進めるとともに、既存の公共交通との効率的な連携が図られるよう、検討を進められたい。

(4) 酪農王国オラッチェの取組について（現地視察）

函南町が一部出資をし、平成9年より事業が開始された酪農王国オラッチェは、牛乳、地元農産物の加工品製造施設の整備と、地場産品の販売、食の体験を通して、将来に向けた夢のある酪農、農業の実現を目指し設立されている。

近年は、地域活性化事業として農泊推進協議会活動に取り組んでおり、地域資源を活かした観光事業で地域活性化を目指している。新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は誘客が難しい状況にあるが、適切な感染予防対策や、アフターコロナを見据えた今後の事業展開についての検討も行われていた。